

---

# 身代わり姫を召喚

いぬらぶ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

身代わり姫を召喚

### 【Nコード】

N6145G

### 【作者名】

いぬらぶ

### 【あらすじ】

ある人達の願いを叶えるために、日下部奈々は異世界の女神に召喚される物語

## ことの始まり(前書き)

王道の異世界トリップものです。

## ことの始まり

二つの月が輝く、満月の夜。

同じ世界の2人の人間が、同じ時間に異なる場所で女神に願いを捧げた。

一人は自分のために

もう一人は自分の娘のために

彼らは本当に叶うとは思ってはいなかった。だって、それはあまりにも自分勝手な願いだから。

しかし、彼らの願いを女神は聞き入れた。

そして彼らの願いを叶えるために、ある異世界の一人の少女の運命はその日を境に大きく変わったのだった。

気持ち悪い（前書き）

続きです。

## 気持ち悪い

「ぎゃ

！！！！！！」

（落ちてる、落ちてる、落ちてる！！）

ジェットコースターに乗ったときの速さと同じくらい速度で、私、日下部奈々《くさかべなな》17歳は現在落下中である。愛車（スクーター）の次郎君と共に、垂直に。

（何で！？何で！？私、何か悪いことしたっ??）

今まで自分ではまっとうに生きてきたつもりだ。母は小さい頃、刑事だった父に愛想をつかして出て行き、父は今から2年前に誘拐事件の犯人の銃弾が当たり死んでしまった。父が死んだ直後は荒れたが、今は父の友人が開いていて、自分も通っていた空手の道場で小さい子供達に指導したり、朝にコンビニでアルバイトをしながら自分でお金を稼ぎ、高校に通っていた。頼れる親戚もいなかったから。そして今日も道場の帰りに、次郎君に乗りながら普通に家に帰ろうとしたのだ。

（ああ、そこであれを見たんだっけ・・・）

今日は、次郎君のガソリンがもう少しで切れそうだったから、ガソリンスタンドに寄ろうとしたのだ。あるときガソリンスタンドによらないで、いつもと同じように右に曲がってまっすぐに家に帰ればよかった。でも次郎君のために私は左に曲った。そしてマンホールからあふれ出てワラワラと蠢く、無数の腕を発見したのだ。あれは気持ち悪かった。腕を見たとき、今まで自分には第六感などない

と思っていたから信じられなくて、目を反射的に閉じてしまった。だから気付けなかった。目を閉じた瞬間に、無数の腕が自分と次郎君を掴んだことに。気付いたときには、すでにマンホールに引きずり込まれていた。次郎君はマンホールより大きいのに。

その後、黒い腕のほとんどは消えてしまった。ご丁寧に私と次郎君を繋ぎとめている黒い腕だけを残して。そして今に至る。

(うう・・・思い出してたら気持ち悪くなってきた・・・もともと好きじゃないんだよね、絶叫系のアトラクション・・・)

口から、気持ち悪すぎて身体中のすべてのものが出てきそうだ。

(吐いてもいいよね・・・誰もいないし・・・)

“ ちよっ、ちよっど、やめてよっ！！私の空間内で吐かないでっ！！”

いざ吐こっつ！とした瞬間、甲高い声が聞こえてきた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6145g/>

---

身代わり姫を召喚

2010年10月9日00時35分発行